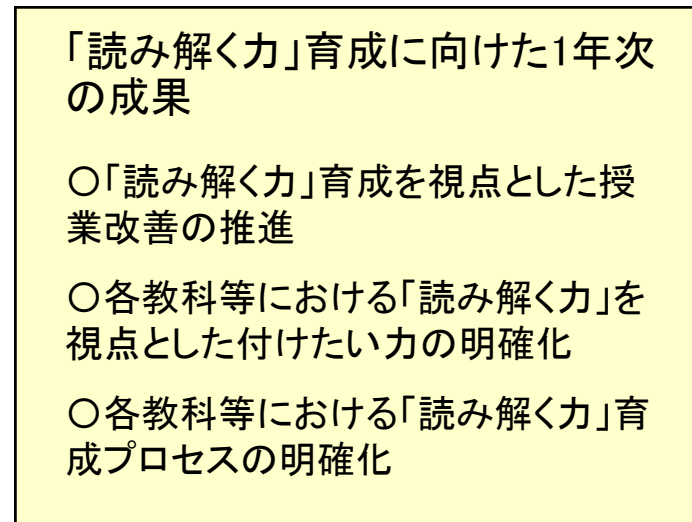
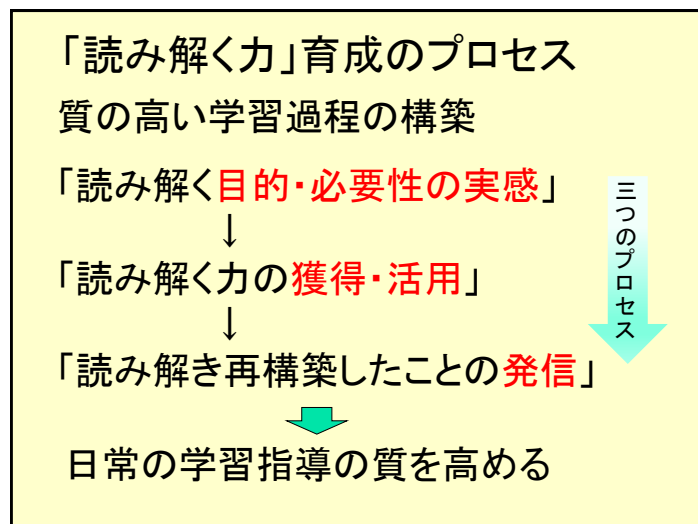


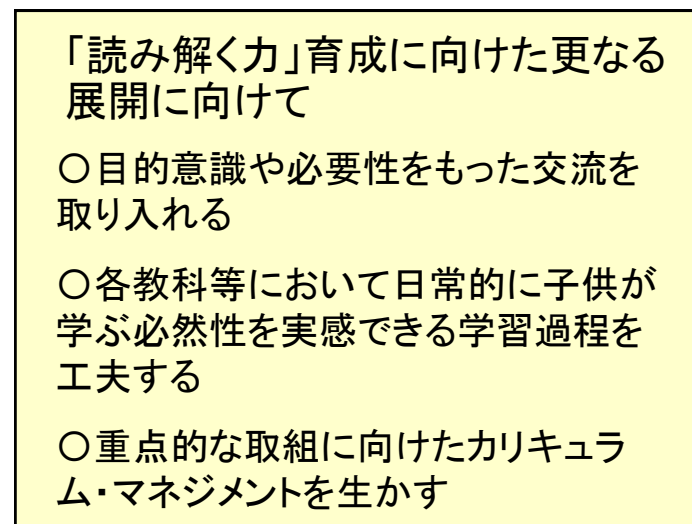
1



2



3



7

### 子供が目的を意識できる、必然性のある交流の工夫

- 指導のねらいを明確に把握することで、決まり切った答えを探すのではなく、自分の考えを創り上げられる課題を工夫する。
- 単元全体のゴールを意識できるようにする。
- 交流で何を求めたいのか、どんな発見を伝えたいのかを明らかにする場を作る。

8

### 子供が目的を意識できる、必然性のある交流の工夫

- 子供の目的や必要性に応じた、交流相手やグループ編成、交流回数を工夫する。
- ねらいに応じた交流形態を工夫する。
- 交流でどのような発話のやり取りを求めたいのか、教材研究段階で想定しておく。
- 国語科以外の各教科等の学習でも取組む。

9

○交流でどのような発話のやり取りを求めたいのか、教材研究段階で想定しておく。

(例)「私は、〇〇と考えています。わけは□□だからです。」→「わけ」が見つからない状況の子供には対応していない。

10

○カリキュラムマネジメントを機能させる。

(例)2月上旬に国語科で研究授業を行う。当日の授業では、グループ(小学校低学年ではペア)学習を、指導のねらいに基づき、自在に展開できるようにしたい。→いつ頃までに、どのような準備が必要か？

15